

# I 沿革史

## 1. 沿革の概要

### ○ 旧篠原東小学校

|          |                                |
|----------|--------------------------------|
| 明治 6年12月 | 篠原小学校の分校として発足                  |
| 明治20年 4月 | 伊切地区の児童を収容，新保地区の児童は柴山校に通学      |
| 明治36年 9月 | 伊切，新保両地区内に簡易小学校を置く             |
| 大正14年 4月 | 伊切尋常小学校新築                      |
| 昭和22年 4月 | 校舎を手塚山下に移して増築                  |
| 昭和28年11月 | 篠原村立篠原東小学校と改名                  |
| 昭和29年12月 | 体育館新築                          |
| 昭和33年 9月 | 新堀川造成のため北方砂丘に校舎移転<br>学校統合により閉校 |

### ○ 旧柴山小学校

|          |  |
|----------|--|
| 明治 6年 8月 | 東方芝山邸に公立小学校を置く                             |
| 明治 8年 4月 | 芝山小学校と改名                                   |
| 明治24年 8月 | 土台山に移転，2階建てに改築                             |
| 昭和17年 1月 | 2階建て1棟，体育館新築，同年高等科併設                       |
| 昭和22年 4月 | 月津村立柴山小学校と改称，同年柴山中学校を併置，<br>同年平屋建て1棟その他を併設 |
| 昭和30年 3月 | 併設柴山中学校を廃し，片山津中学校に統合                       |
| 昭和33年 9月 | 学校統合により閉校                                  |

### ○ 湖北小学校

|             |                                    |
|-------------|------------------------------------|
| 昭和33年 9月 1日 | 加賀市立湖北小学校開校，当分の間，柴山教場及び篠原教場にて授業を行う |
| 昭和33年11月10日 | 統合校舎完成により，両教場を廃す                   |
| 昭和40年 3月31日 | 防音校舎完成                             |
| 昭和43年 7月15日 | 創立10周年記念事業として，水泳プールを建設する           |
| 昭和48年 3月 8日 | 防音講堂落成                             |
| 昭和53年11月10日 | 創立20周年記念事業として，校舎周辺緑化（工事）を行なう       |
| 昭和54年 9月10日 | 運動場整備（表土入れ替え，暗渠）                   |
| 昭和55年 7月 4日 | 校舎塗装                               |
| 昭和60年 7月23日 | プールフローアー工事完成                       |
| 昭和60年 9月20日 | 校舎窓枠サッシ入れ替え工事完成                    |
| 昭和61年12月24日 | 家庭室，視聴覚教室増築工事完成                    |
| 昭和63年10月20日 | 創立30周年記念事業として「ふれあい広場」完成            |
| 平成 8年 8月27日 | 体育館工事完成                            |
| 平成 9年 9月29日 | 保健室，校長室，職員室冷房設備完成                  |
| 平成14年 9月30日 | 教育用コンピュータ導入                        |
| 平成18年 1月13日 | 校舎全面改築工事着工                         |
| 平成19年 6月29日 | 新校舎工事完成                            |
| 平成20年 3月28日 | ビオトープ工事完成                          |
| 平成21年 9月 4日 | 運動場整備（表土入れ替え）                      |
| 平成30年11月 3日 | 創立60周年記念事業（記念式典・一輪車寄贈）             |
| 令和 6年 3月29日 | 学びの空間デザイン事業として，廊下整備を行う。            |

## 2. 実践研究の歩み

|             |   |
|-------------|---|
| 昭和49・50年度   | たがいに認め合い 伸びようとする子どもを育てる   |
| 昭和51年度      | 楽しい学習の中で自ら学ぶ子を育てる   |
| 昭和52～54年度   | 楽しい学習の中で自ら学ぶ態度を育てる  |
| 昭和55・56年度   | 豊かさと活力のある子どもをめざして   |
| 昭和57・58年度   | よくわかる算数学習をめざして (市指定58年度発表)  |
| 昭和59～61年度   | 基本的な生活習慣を身につけ進んで働く子の育成をめざして<br>(60・61年度県指定 61年度発表)                              |
| 昭和62年度      | 道徳的実践力を深める効果的指導法の研究   |
| 昭和63年度      | 豊かな心をも持ち進んで行動できる子どもの育成  |
| 平成 元年度～     | 豊かな心を持ち 互いによりよく生きようとする子どもの育成<br>(元・2年度文部省指定 2年度発表)                              |
| 平成13年度      | 低学年授業研究会・小松教育事務所道徳教育講習会会場校  |
| 平成19年度      | 人と人とのかかわりの中で、よりよく生きようとする子どもの育成(中学年授業研究会)  |
| 平成20・21年度   | 文部科学省道徳教育実践研究事業推進校・小松教育事務所道徳教育講習会会場校  |
| 平成21年11月13日 | 文部科学省道徳教育実践研究事業推進校研究発表会   |
| 平成22年度      | 人と人とのかかわりの中で、よりよく生きようとする子どもの育成  |
| 平成23年度      | 人と人とのかかわりの中で、よりよく生きようとする子どもの育成  |
| 平成24年度      | 『自ら考え学び合う子の育成』—道徳の授業改善を中心として—   |
| 平成25年度      | 『自ら考え学び合う子の育成』<br>—根拠や筋道を明確に表現できる子を目指して—  |
| 平成26年度      | 『自ら考え学び合う子の育成』—算数科の学習を通して—<br>(中学年授業研究会)  |
| 平成27年度      | 『自ら考え学び合う子の育成』—算数科の学習を通して—  |
| 平成28年度      | 『自ら考え学び合う子の育成』—算数科の学習を通して—  |
| 平成29年度      | 『自ら考え学び合う子の育成』—言語活動の充実を目指して—  |
| 平成30年度      | 『主体的な関わりの中で学びを深める児童の育成』<br>—対話的な話し合い活動の充実を通して—                                  |
| 令和 元年度      | 『主体的な関わりの中で学びを深める児童の育成』<br>—対話的な話し合い活動の充実を通して—                                  |
| 令和 2年度      | 『主体的な関わりの中で学びを深める児童の育成』<br>—「学びの意義」を実感させる授業への質的改善を通して—                          |
| 令和 3年度      | 『主体的な関わりの中で学びを深める児童の育成』<br>—「学びの意義」を実感させる授業への質的改善を通して—                          |
| 令和 4年度      | 『主体的な関わりの中で学びを深める児童の育成』<br>—自力で読みを深める国語科の学習を通して—                                |
| 令和 5年度      | 『主体的な関わりの中で学びを深める児童の育成』<br>—考えたい!話したい!聴きたい!と思う授業づくり—<br>個別最適な学びと協働的な学び～算数科を通して～ |
| 令和 6年度      | 『子どもが主役の授業づくり』<br>— やりたい!考えたい!と動き出す授業へ —  |
| 令和 7年度      | 『やりたい!やり遂げたい!がつながる授業』<br>— 一人ひとりが主役の学びを目指して —                                   |
| 令和 8年度      | 『自らの問いをもち、考え、挑み続ける児童の育成』<br>— 生活・総合を核とした他者とつながり自らを高めていく授業実践を通して —               |